

2021年度 保健衛生学科卒業式 学長式辞

本日 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科を卒業される皆さん ご卒業 誠におめでとうございます。

コロナウイルス感染症の影響により、授業のオンライン化をはじめ、様々な行事の中止などを余儀なくされ、皆さんにとって予期せぬ学生生活となったことと思います。

皆さんは、実習が本格化する時が、感染拡大の時期に重なり、多大な不便を被られたと思います。また、国家試験受験に際しても感染への細心の配慮が求められ、精神的な負担も大きかったと思います。

皆さんが困難を乗り越えてここに晴れの卒業式を迎えられたこと、列席の役員、学部長をはじめとする教職員一同とともに心からお祝い申し上げます。

また、本日は感染対策のため会場にお招きすることは叶いませんでしたが、入学以来 ご支援を頂いたご家族・関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

卒業式という場で、皆さんにお伝えしたいことがあります。それは皆さんの先輩たちの活躍です。

皆さんもよくご承知のように本学はコロナウイルス感染症に正面から立ち向かった代表的な大学です。コロナ重症患者を最も多く受け入れたのは東京医科歯科大学病院であり、本学大学院は、並行して145件の研究を進め、変異株の知見など多くの成果を社会に発表しています。

このコロナ対応の最前線にいるのは看護師です。本学では、コロナ陽性重症患者はICUに、中等症は10階に入ります。今は、ICUに12床、10階に49床が用意されています。

ICUはベッドの数が少なく、しかも人工呼吸器やECMO（つまり人工肺）が使える病院は都内にも数えるほどしかありません。2月は、満床でお断りすることが一日に何件もありました。

その中で、ICUの医師・看護師たちは、ベッドを何とかして空けて新しい患者を入れようと努力していました。そのために、人工呼吸器が外れるとすぐに10階に移します。しかし、状態が不安定で翌日にはICUに逆戻りということもありました。これは受け入れる10階の医師・看護師たちにとっても大変なことでした。

それでも皆さんの先輩たち、その中には一年目の看護師も居ましたが、ベッドを回していくことで少しでも多くの患者を受入れていこうと努力していたのです。コロナ対応で通常診療用のICUも一杯で、本来ICUに入るような患者が一般病棟に入り、こちらの看護師たちも本当に大変でした。

そのような中、一年間に渡り病院が持ちこたえられたのは、院内感染が最小限に抑えられたからです。

その背景には、コロナ対応の医師・看護師たちを対象とした定期的なコロナウイルスのPCR検査、患者の入院前PCR検査、感染クラスターが起こりかけた時の臨時PCR検査など、検査学専攻の先輩たちが土日、昼夜を問わず夥しい数のPCR検査を実施してくださった努力があるのです。

しかも、本学のPCR検査の感度はウイルスが数コピーでも検出できるレベルまで改善されていて、これは皆さんの若い先輩によってなされたものでもありました。

皆さんの中には、大学院に進まれる人もいれば、臨床現場に出る人もいます。どの方面に進む人も、先輩たちがパンデミックと闘いながら、世のため人のために最大限の努力をしてきたことを知って頂きたいのです。

そしてこのような大学で学んだことを誇りに思って、それぞれの場所で世のため人のために貢献して行ってください。

東京医科歯科大学は、今後も皆さんを将来にわたり見守り応援して参ります。

皆さんの幸せな将来を教職員一同祈念しつつ、お祝いの言葉と致します。

本日は誠にありがとうございます。

2022年3月18日

東京医科歯科大学 学長 田中 雄二郎